



雄和市民サービスセンターの旧町長室（現会議応接室）を五月十日から市民の皆さんが利用できるようにして、利用がしやすい。歓迎などの待ち時間や合の歓談などにご利用ください。

元気に遊ぶ中央保育所園児たち。地域みんな
で支え育てていきたいものです。



▼利用時間
午前九時～午後五時
（ただし、土、日、祝祭日、年末年始を除く。）
▼その他
食事（アルコール類を含む。）は、ご遠慮ください。

国勢調査でみる「どうなる 雄和」
納得したくないが納得する話

10月1日を基準日として人口等を調査する国勢調査。5年に一度の調査なので、国勢調査のたびに5歳年をとることになります。この5年間で雄和地域の人口は、どう変化したのでしょうか。

平成17年		5年後・・・	平成22年	5年間の増減
		0～4歳	170人	
0～4歳	219人	5～9歳	227人	8人
5～9歳	264人	10～14歳	256人	▲8人
10～14歳	324人	15～19歳	519人	195人
15～19歳	477人	20～24歳	558人	81人
20～24歳	407人	25～29歳	294人	▲113人
25～29歳	358人	30～34歳	335人	▲23人
30～34歳	337人	35～39歳	335人	▲2人
35～39歳	324人	40～44歳	313人	▲11人
40～44歳	386人	45～49歳	378人	▲8人
45～49歳	561人	50～54歳	565人	4人
50～54歳	699人	55～59歳	682人	▲17人
55～59歳	652人	60～64歳	646人	▲6人
60～64歳	503人	65～69歳	480人	▲23人
65～69歳	548人	70～74歳	516人	▲32人
70～74歳	627人	75～79歳	563人	▲64人
75～79歳	561人	80～84歳	463人	▲98人
80～84歳	311人	85～89歳	229人	▲82人
85～89歳	189人	90～94歳	100人	▲89人
90～94歳	74人	95～99歳	18人	▲56人
95～99歳	29人	100歳以上	10人	▲19人
100歳以上	2人	年齢不詳	79人	
合計	7,848人	合計	7,736人	▲112人

▲は減少した人数を示します。

平成22年10月に行われた国勢調査の結果、雄和地域の人口は、5年前の前の調査に比べ、1.4%、112人の微減でした。県全体で5.2%、秋田市全体でも2.9%の減少であったことを考慮すれば、雄和では、人口減少問題は一見、関係ないようにも見えます。

しかし、左の表から、この5年間で人口が特に増えたのは、平成17年に10～19歳で5年後に15～24歳になった層のうちでも、18～22歳になった年代層に限られています。この増加要因のほとんどは、留学生を含む国際教養大学の学生が雄和に転入してきたことにあります。元々の住民は確実に減少してきています。

14歳以下の児童・生徒数 5年間で20%減

平成17年時の14歳以下の児童・生徒数は807人、これに対し平成22年時には653人となり、約20%、154人の減少となっています。減少の要因は、出生数の減少だけでしょうか。

5年ごとに国勢調査が行われることから、10歳であった小学生は、5年後には15歳の中学生になりますが、平成17年時に10歳の児童が70人であったものが、15歳になった平成22年には60人と、10人減少しています。転入で増えている年代もありますが、総じて、転出が転入を上回っています。

エッ！ 27歳女性 雄和全体で20人

国際教養大学の女子学生が1学年で百人近いながら、23歳から30代の女性になると、人数は激減します。特に、27歳女性はわずか20人、29歳女性も22人です。一方、50代後半の女性は57歳で83人。30年前の27歳の女性も80人前後いたでしょう。現在の4倍にあたります。全国的な少子化の中で、雄和地域も未婚、既婚も含め27歳女性が20人（男性は36人）という厳しい現状になっています。

ともにつくり ともに生きる 人・まち・くらし